

コースのご案内



7キロコース「愛宕山登りと吉野地区の史跡めぐり」→

歩数 約10,000歩 消費カロリー 約347kcal

2キロコース「愛宕山と里山エリア周遊」→

歩数 約3,000歩 消費カロリー 約80kcal

※消費カロリーは、体重60kg、速度5km/hでの歩行を基準としています。

E 三山神社 (さんざんじんじゃ)

昔、余田町には氏神様が二社あった。山王社(神社)と三輪神社である。

山王社は現在の三山神社の場所(字は大門)にあり、三輪神社は宇馬場(通称お宮畠)に立っていた。

明治末の神社法の改定によって「一村一社」が決まったため、合併することになった。三輪神社の「三」と山王社の「山」を取って、「三山神社」と称し、現在地に大正六年二月竣工した。



F 八幡神社 (はちまんじんじゃ)

宮谷に鎮座、応神天皇を主神とし、大山姉命を祀る境内日吉神社、および大国主命を祀る同大国主神社を合祀しているが、いずれの社もその由縁不詳である。

なお水坂には、「越前総神分」によれば、「從五位山雲神」があったことになっているが、社号などより考えて、大国主神社が、この神社の改称されたものではなかろうかと考えられる。



G 鶴甘神社 (つるかじんじゃ)

片屋町の字経ヶ岳に鎮座、応神天皇・神功皇后および武内宿祢を祀る。もと愛宕山の西麓に近い鶴甘谷にあって、正法寺がその別当職をつとめていた。

天正四年(1576)柴田勝家の兵火にかかり、一時衰頽していたが、その後本多伊豆守富正より社地の寄進をうけて、現在の地に再建、その後は国分寺が別当となり、明治にいたった。また遷座後はどうしたことか、八幡神社と称していたが、「越前総神分」によって、本社が鶴甘神社となることを考証、明治四十一年官の許可を得て、ふたたび鶴甘神社というようになった。

鶴甘神社と境を接した竹藪の中に、性信仰石らしいものを、墓石に用いているものがある。当方としては珍しいものであろう。



D 萬靈塔 (まんりょうとう)

江戸時代の天保7年(1836)に越前一帯を襲った大飢饉(1836年が最も大凶作)の時に、餓死された当地の者30余人、無籍流民で当地で餓死された者数十人を埋葬し冥福を願った墓石である。

昭和62年の修復の際に350個の墨書きした小石(写経か、1佛1石か)が埋葬されているのが確認されている。



C 示現觀音堂 (じげんくわんどう)

ご本尊は十一面觀音菩薩です。陣屋内にあったものを、本保の有志の寄進でお堂を建立し、移転しました。以来、8月10日の夕方、引接寺檀家の同行衆で西国三十三箇所のご詠歌を接経してお勧めをされています。観音様に内仏があつて信仰を集めておられます。



B 本保障屋 (ほんじょうや)

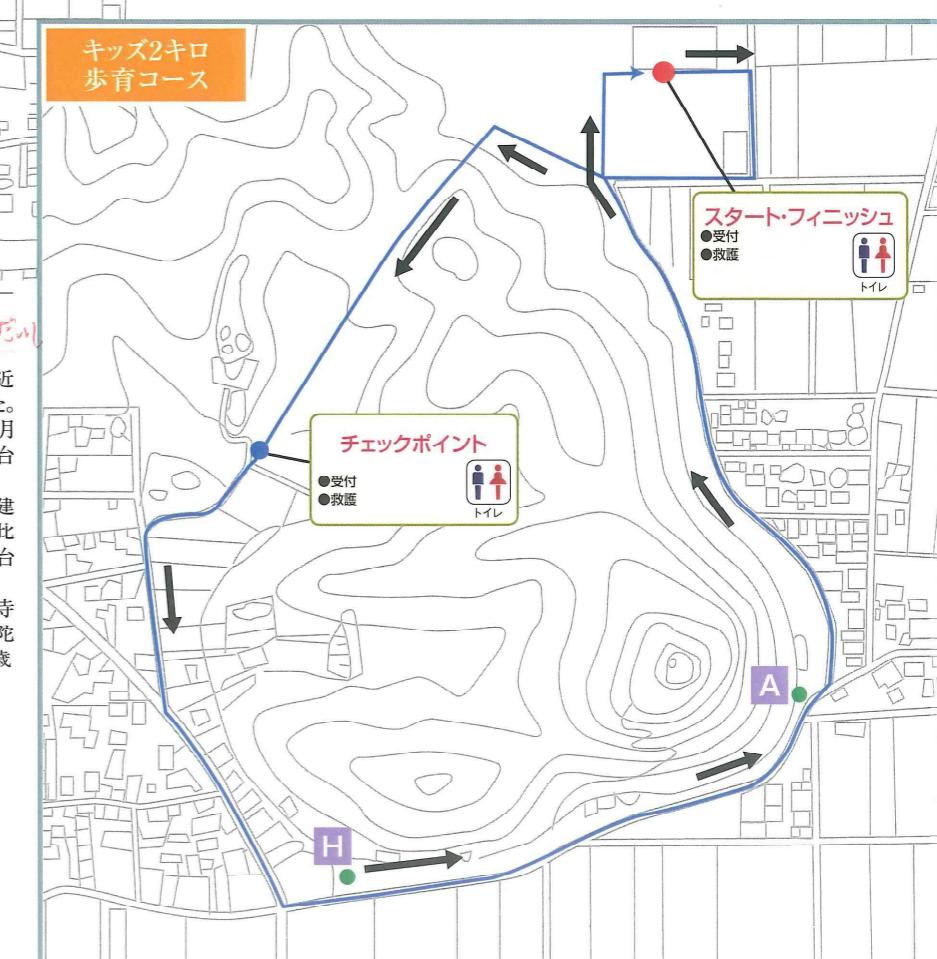
本保障屋は、越前国内の幕府直轄領を支配していた役所で、幕末には丹生郡や今立郡、大野郡などの175か村余、約5万石を統治していた。享保6年(1721)に初めてこの地に設けられ、一時廃止されたが、延享元年(1744)に再び設置された。その後、明和4年(1767)に飛騨高山郡代の支配下におかれ、明治まで存続した。

明治2年(1869)に本保県が成立すると、旧陣屋が県庁に当たられ、一部の建物を改修したり、増築して明治4年7月に開庁した。しかし、4か月後の11月に本保県は廃止され、明治6年ころまで、旧陣屋の建物はすべて取り払われた。

江戸時代の本保障屋の建物は、周囲に幅4尺ほどの惣堀が廻り、土地に囲まれた敷地は、東西約42間、南北方向は西辺が約40間、東辺が約28間で、広さは1500坪余であった。中央に玄関や西座敷、台所、白州(裁判)などからなる「御門長屋」があり、正面東側は、正門を備えた「御門長屋」である。「北長屋」や「西長屋」は役人たちの住居と考えられ、ほかに土蔵や小屋、稻荷社などの建物もみられる。これらの建物は、延享の再営時の記録である「御陣屋御普請諸入用勘定目録」(本保区有文書)にみられる。いずれも茅葺きの建物であったと思われる。



キッズ2キロ 歩育コース



A 元三大師 (りょさんだいし)

越前瓦の研究と発展に一生を捧げた青木嘉七は明治13年製瓦業 青木勝次郎の子として片屋に生まれた。明治29年父の死により17歳で家業を継ぐ。青木嘉七の一生は、自分の利益を優先することなく、また、研究を研究に終わらせることなく、庶民や全体が豊かになることを追求した野人としてのそれと言えよう。昭和17年63歳で片屋町にて没。

元三大師は延喜12年(912)9月、近江国浅井郡(虎姫町)にて誕生された。

又、比叡山が衰微した康保3年8月(966)、58歳にして第十八世天台座主に上任せられる。

以来、講堂・神殿等十五の堂塔を建立し、且つ僧房舎を建立せられる等、比叡山の復興に尽力せられた故に天台宗は中興の祖として崇敬している。

永觀3年正月元日、東坂本求法寺に於いて弟子に遺誠し3日目に弥陀を念じつ遷化せられた。御年74歳

